

関西大学所蔵

増田涉文庫目録

関西大学図書館

関西大学所蔵

増田涉文庫目録

関西大学図書館

関西大学所蔵

増田涉文庫目録

関西大学図書館



関西大学所蔵

増田涉文庫目録

関西大学図書館

序

もと本学教授の故増田渉先生はすぐれた中国文学者として、また魯迅研究の第一人者として甚だ令名が高かった。生前の魯迅に親しく教えをうけ、魯迅文学の我が国への紹介に大きな貢献をのこされたことは衆知のとおりである。去る昭和五十二年三月十日惜しくも急逝されたが、先生の歿後、御遺族の深いご理解によって、そのご蔵書の全部が一切をあげて関西大学に移管せられることになり、本学図書館ではこれを「増田渉文庫」として特別保存するとともに、その公開にむけて整理を進め、このたび「増田渉文庫目録」を完成上梓するにいたった。

先生はすぐれた研究者であると同時に有数の蔵書家のお一人でもあった。その興味をむけられた研究課題は多岐にわたり、この文庫に蔵されている膨大な資料は、各分野にわたって、きめの細かい、配慮の行き届いた充実した内容に富んでいる。一例をあげるならば、魯迅の全著作の初版本をはじめ各種異版のほとんど全部、即ち魯迅に関する多量の参考文献が精力的に収集されている。これが本文庫のすぐれた特色の一つである。また、魯迅を生んだ背景、それはとりもなおさず近代化に至るために中国がたどった道程であるが、その研究に関する文献類が主要テーマをなして文庫の一端を形づくっている。そして西洋文明が東洋へ波及してくる過程で、中国と日本が蒙った影響についても先生は多大の関心を払われ、その主題のもとに徹底的な集書がなされた。東西交渉史への幅広い関心である。この部門のものだけでもこの種のコレクションとしては我が国有数のものと称し得る程で、これが本文庫のさらに大きな特色の一つになっている。

以上は、ほんの一端にふれただけであるが、これら貴重な学術資料がこの目録刊行を期として公開される。汎く学徒によって本文庫の蔵書が大いに活用され、増田先生の拓かれた学問の道が長く継承されんことを切望す。

昭和五十八年三月十日増田渉先生七回忌の日に

本文庫の整理と目録の編纂を担当したのは本学講師肥田皓三氏である。併せ記してここに謝意を表す。

関西大学図書館長

名 取 栄 史

目 次

第一編 国書之部

総記	一
哲学	一五
歴史	二四
社会科学	三
自然科学	六
芸術	六
語学	六
文学	六

第二編 漢籍之部

経部	八
史部	三
子部	一三
集部	一四
叢書部	一五
新学部	一五
総記	一五
哲学	一三
歴史	一七

社会科学	三七
自然科学	三五
技術・産業	三五
美術	三五
語学	三三
文学	三六
中国古典文学	三七
中国現代文学	三六
魯迅	三五
附 他文庫所蔵本複写	三三
中国文学研究諸家論文抜刷	三三
増田涉論文掲載誌	三六
書名索引	三四

凡 例

一、本目録は関西大学図書館所蔵のもと本学教授増田渉先生の旧蔵書約八千点、総計約巻万六千冊を収めたものである。

一、目録の編成は第一編を国書之部とし、第二編を漢籍之部とした。ただし日本人著述による中国関係書の全部を漢籍之部に編入した。これが本目録の著しい特色である。目録全体の構成は昭和四十年刊「東京大学文学部中国哲学中国文学研究室蔵書目録」の体裁に倣った所が多い。

一、分類は十進分類法と四部分類法とを併用した。第一編国書之部は十進分類法により、第二編漢籍之部は四部分類法により、漢籍のうち新学部は十進分類法によった。

一、十進分類法は本館の分類表（日本十進分類法）に、四部分類法は昭和四十八年刊「東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録」に準拠した。蔵書の内容に応じて適宜改訂を加えた所がある。国書之部の交往史に大きくスペースを与えたのと、漢籍之部に西学の一項を設けたのと、中国現代文学の分類内に魯迅の項目を立てたことなどがその一例である。

一、同一分類内では著作年代順に図書を配列した。内容の時代順、地域順、図書の刊行年順に並べた所もある。

一、叢書、類書は書名のみを掲げ内容細目は掲出しなかった。本文庫の特色たる分野の合刻本などについては、例外として適宜に細目を掲げたものがある。

一、記述は先づ書名を記し、次に著者名、編者名、出版事項、注記事項を記した。標目した書名以外の別書名は書名の下（ ）内に記した。冊数は漢籍の経史子集部については下段に記した。国書之部と漢籍の新学部については一冊の場合は表示せず、二冊以上の時のみ書名の下に記した。国書のうち明治以前の刊本と写本については（和 冊）として注記事項内に記載した。

一、「又」は前書と同版であることを示す。

一、著者名は本名、筆名にかかわらずその書にしるされている名前にしたがった。ただし国書のうち明治以前の著作については字号にこだ

わらず通行の名称を用い、漢籍の經史子集部については姓と諱を用いた。

一、著者名の記載は漢籍の經史子集部以外は「著」を省略した。ただし著者と編者を並記する場合は「何某著 何某編」と記した。

一、書名索引の「シ」の項目内で「シャ」「シュ」「ショ」「シン」の頭文字ではじまる書名がやや多量を占めるので、その箇所に小見出しを付けた。いささかでも検索に便ならしめんがためである。「チ」の項目内の「中国」の頭文字ではじまる書名群についても同様である。

一、図書の請求記号は最下段に記した。閲覧の時はこれに文庫記号 LM² を付けて請求されたし。

一、増田渉先生自筆書入れのある書物並びに貴重書は、請求記号の上部に*印を付けた。これらの書物の閲覧については本館の規定にしたがってやや制限を加える。

一、増田渉年譜並びに著作目録は三三九頁下段の「る53」（啞第八号）を参照されたい。

